

教科名

工業数学

	前期	後期
コマ数	1	

総時数

36

開講学科

建築学科 1年
建築設計デザイン科 1年

担当教員

国京 佳史

実務経験:

一般教員

目 的	建築を学ぶ上で必須となる数学の基礎知識を学び、建築設計、構造力学、環境工学、建築法規等の数字・計算を必要とする科目の理解に繋がる下地をつくる。
-----	---

実務経験 の生かし 方	
-------------------	--

授業概要	前期	後期
	① 工業数学の概要 … 目的・進め方・定期試験について等	①
	② スケール感 ① … 単位の仕組み	②
	③ スケール感 ② … さまざまな単位	③
	④ さまざまな事象について計算をする① … 四則演算・分数を含む計算	④
	⑤ さまざまな事象について計算をする② … 比の計算・公式の活用・比例反比例	⑤
	⑥ 建築設計と図形 … 図形と幾何学・直線と角度・形状の美しさ	⑥
	⑦ 1D(線)を扱う建築事象 … 長さの測定・三角比の利用・測量への応用	⑦
	⑧ 2D(多角形)を扱う建築事象 … 図形の面積・建ぺい率と容積率	⑧
	⑨ 3D(立体)を扱う建築事象 … 立体の体積・質量と力	⑨
	⑩ 1D・2D・3Dのまとめ	⑩
	⑪ さまざまな事象について解を求める	⑪
	⑫ 力を扱う建築事象	⑫
	⑬ 全体のまとめ	⑬
	⑭	⑭

評価方法	中間試験・期末試験(計2回)による100点満点の平均点数 他に出席率、授業態度等を加味する
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	超入門・建築数理 (市ヶ谷出版社)	教員オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 就職研修(硬質書写)

	前期	後期
コマ数		0.5

総時数

19

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 若狭 聖子

実務経験: 一般教員

目的	就職活動の応募書類(履歴書)を丁寧に心を込めて書き、読み手が読みやすいような書き方、また面接後のお礼状、封筒の宛名書きなど、就職内定にむけての技能の向上を図る。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① 自分の名前を丁寧に仕上げる(履歴書の下書き)
	②	② 履歴書を仕上げる(ひな型とする)
	③	③ 履歴書添え状などの書き方
	④	④ 封筒の宛名書き
	⑤	⑤ 面接後のお礼状の書き方
	⑥	⑥ 内定のお礼状の書き方
	⑦	⑦
	⑧	⑧
	⑨	⑨
	⑩	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭

評価方法	受講態度、出席状況、課題提出などをもって総合的に評価する100%
------	----------------------------------

教科書 教材	教科書	教材	
	就活本や、ペン習字の冊子より適時、引用(指導者抜粋)	教科書の引用部分をプリントアウトする 学校指定の履歴書を活用	

その他	履歴書用の最適な筆記用具必須
-----	----------------

教科名 建築史

	前期	後期
コマ数	1	

総時数
36

開講学科	建築学科1年 建築設計デザイン科1年
------	-----------------------

担当教員 井潤 裕 実務経験: 一般教員

目的	日本建築史および西洋建築史について建築様式の歴史的潮流を概観し、時代背景や地域的特色を視野に入れつつ、その特色・成立過程・歴史的な意義を理解させる。それと同時に、構造とデザインの相関性をふまえた空間認識能力を養い、様式をふまえたデザインリソースを取得させる。
----	---

実務経験 の生かし 方	
-------------------	--

授業概要	前期	後期
	① オリエンテーションと基礎知識	①
	② 日本建築史 古代①神社建築	②
	③ 日本建築史 古代②寺院建築	③
	④ 日本建築史 中世①古代都市と貴族住宅	④
	⑤ 日本建築史 中世②平安から鎌倉期の宗教建築	⑤
	⑥ 日本建築史 近世① 書院・茶室と数寄屋	⑥
	⑦ 日本建築史 近世② 霊廟・城郭	⑦
	⑧ 西洋建築史 古代エジプト建築	⑧
	⑨ 西洋建築史 古代ギリシア建築	⑨
	⑩ 西洋建築史 古代ローマ建築	⑩
	⑪ 西洋建築史 初期キリスト教・ビザンチン	⑪
	⑫ 西洋建築史 ロマネスクとゴシック	⑫
	⑬ 西洋建築史 ルネサンスとマニエリスム	⑬
	⑭ 西洋建築史 バロックとロココ	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間テストと期末テストの平均点数(80%)および出席点(20%)により評価する。
------	--

教科書 教材	教科書 建築史(文教出版)	教材	備考
-----------	------------------	----	----

その他	
-----	--

教科名 建築一般構造

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 山本 崇仁

実務経験: 建築施工管理

目的	建築物の構造体の分類と各種工法についての学習と、各部位の建築専門用語を通じて、木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造等の基本を学び、建築施工との関連を理解することを目指す。
----	---

実務経験の生かし方	施工管理の実務経験を通じて、最低限建築の仕事で困らない程度の知識は全体的に押さえ、建築士試験の問題の範囲も盛り込んでいく。施工手順等については、実務経験に基づいたエピソードを交えながら説明する。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	① 建築工法の変遷 ・構造、構法の分類	① RCの構造形式と構造原理 ・コンクリートの材料構成
	② 各種構造の特徴 ・設計図書	② 鉄筋の種類と強度 ・鉄筋の加工、かぶり厚さ、定着
	③ 木材の性質、強度 ・製材の呼称、木材の変形	③ ラーメン構造の構成 ・基礎の種類
	④ 軸組み工法の部材構成	④ 柱の構成 ・梁の構成と配筋
	⑤ 建て方順序、仕口	⑤ スラブの構成 ・壁の構成
	⑥ 地盤調査、配筋、やりかた	⑥ 内外装各部の仕上げ ・階段の構成
	⑦ 基礎の構成 ・柱の構成、小径、緊結	⑦ 壁式構造 ・鉄骨鉄筋コンクリート工法
	⑧ 小屋組みの構成 ・屋根の形状と名称	⑧ 鉄骨造の構造形式 ・鋼材の形状と柱、梁の種類
	⑨ 筋交いの構成、四分割法、壁量計算	⑨ 接合方法(高力ボルト接合) ・架構の構成と建て方
	⑩ 壁の構成 ・床の構成	⑩ 床、外壁の構成
	⑪ 接合方法、金物の種類	⑪ 内部空間名称、外部空間名称
	⑫ 内部構成、外部構成	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭

評価方法	中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確保するための小テストを実施するが、成績には加味しない。
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	図解 建築の工法と構造 改定版 井上書院	確認テスト(毎授業配布)	

その他	二級建築士学科試験の構造と施工に関連する内容となる。
-----	----------------------------

教科名 建築材料

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 建築設計デザイン科 2年
建築学科 2年

担当教員 前川 新一

実務経験: 一般教員

目的	建築材料学は、建築空間を構成する基本となる素材の学習である。建築材料を構造材料と仕上材料に大別し、材料の歴史的な使用方法から、現在の新しい構造・構法などを通して用いられる材料の特性・使用方法を学び、資源の枯渇・環境問題等、今後の建築材料のあり方など、現在の現場における仕様を実務経験をふまえて教える。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 1-1 建築と建築材料 1 建築材料の歴史	① 5 コンクリート② 6 混和材料
	② 2 建築材料と規格 3 建築材料と環境 1-2 建築材料の分類	② 7 コンクリートの種類
	③ 1-3 建築材料と性能 2-1 木材 1 木材の使われ方	③ 3-1 仕上げ材料(概要) 3-2 木、竹製品
	④ 2 木材の種類と用途 3 木材の特徴(性質)①	④ 3-3 セメント・コンクリート・せっこう製品
	⑤ 3 木材の特徴(性質)②	⑤ 3-4 金属製品
	⑥ 4 木取り、規格、等級①	⑥ 3-5 タイル・れんが
	⑦ 4 木取り、規格、等級② 5 集成材	⑦ 3-6 ガラス 3-7 石材
	⑧ 2-2 鋼材 1 鋼材の使われ方と特徴 2 鋼材の種類 3 鋼材と加工	⑧ 3-8 左官・仕上塗材 3-9 畳、繊維製品
	⑨ 4 鋼材の性質と用途 5 鋼材の規格 6 ステンレス鋼	⑨ 3-10 プラスチック材料 3-11 塗料
	⑩ 7 接合 2-3 コンクリート 1 コンクリートの使われ方	⑩ 3-12 接着剤 4-1 防水材料の使われ方 4-2 防水材料
	⑪ 2 セメント 3 骨材	⑪
	⑫ 4 水 5 コンクリート①	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	初めての建築材料 (学芸出版社)		

その他	
-----	--

教科名 建築計画

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 須貝 日出海

実務経験： 一般教員

目的	建築設計の基本となる計画分野を、住宅や教育施設、商業施設といった用途別で習得する。まずは、身近な建築物を具体例に授業を進め、自分の身のまわりにある事柄として、親近感を持ってもらうことが授業の最大の狙いである。また、計画分野は、一級建築士試験や二級建築士試験に必ず出題されるため、将来の試験を見据え、目的を理解した上での前向きな学習を推奨したい。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期 ガイダンス / 建築計画の概要	後期
	① 居住施設の計画(1)	① 社会教育施設の計画(1)
	② 居住施設の計画(2)	② 社会教育施設の計画(2)
	③ 居住施設の計画(3)	③ 社会教育施設の計画(3)
	④ 居住施設の計画(4)	④ 社会教育施設の計画(4)
	⑤ 居住施設の計画(5)	⑤ 社会教育施設の計画(5)
	⑥ 中間試験	⑥ 中間試験
	⑦ 細部計画	⑦ 商業施設の計画(1)
	⑧ パリアフリー対策	⑧ 商業施設の計画(2)
	⑨ 学校教育施設の計画(1)	⑨ 商業施設の計画(3)
	⑩ 学校教育施設の計画(2)	⑩ 商業施設の計画(4)
	⑪ 学校教育施設の計画(3)	⑪ 商業施設の計画(5)
	⑫ 学校教育施設の計画(4)	⑫ 商業施設の計画(6)
	⑬ 期末試験	⑬ 期末試験
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数。通常授業内で行う各章の小テスト40% 定期試験50% 出欠席10%、計100%での評価
------	---

教科書 教材	教科書 建築計画(市ヶ谷出版社)	教材	備考
-----------	---------------------	----	----

その他	
-----	--

教科名

環境工学

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科

 建築学科 2年
 建築設計デザイン科 2年

担当教員

戸巻 美樹

実務経験:

建築設計

目的

建築を取り巻く様々な自然環境や都市環境、また人間の快適条件を学んだ上で、快適な建築環境の作り方・手法を教える。熱・空気・光・音などの基礎知識が実務の設計でどのように有効に使われるかを事例をあげながら説明する。

実務経験の生かし方

実施設計をする際に、外部気候(熱、光、空気、音など)がどのように影響されるのかを実務経験の例を交えて説明し、外部環境をどう取り入れて、どのような事を注意して設計したらよいのかを説明する。また最近の建築における環境計画の動向も法改正や事例とともに説明する。

授業概要	前期	後期
	建築環境の概要	
①	気候①/気候と建築、気温、湿度	① 日照と日射①/日照と住環境、太陽の位置
②	気候②/空気線図、風、雨と雪	② 日照と日射②/日照と日影の検討(日影曲線、天空率、法的規制)
③	気候③/室内気候(温熱要素、温熱環境の指標)	③ 日照と日射③/日影図
④	伝熱と結露①/伝熱の基礎、熱貫流	④ 日照と日射④/日射(直達日射と天空放射、日射熱の流入、日照調整)
⑤	伝熱と結露②/熱貫流の計算	⑤ 採光・照明と色彩①/測光量、視覚と見やすさ
⑥	伝熱と結露③/断熱の効果、断熱の計算	⑥ 採光・照明と色彩②/採光(採光率、採光計画)
⑦	伝熱と結露④/熱容量、外断熱と内断熱、蓄熱、結露	⑦ 採光・照明と色彩③/照明(照明計算、照明計画)
⑧	換気と通風①/室内の空気汚染	⑧ 採光・照明と色彩④/色彩(色の心理的・生理的效果、色彩調節)
⑨	換気と通風②/換気目的、必要換気量・換気回数の計算	⑨ 音環境①/音の性質(音の発生と伝搬、音の3要素、音の量と単位)
⑩	換気と通風③/自然換気(風力換気・重力換気)、通風	⑩ 音環境②/遮音と吸音(遮音、吸音、吸音機構)
⑪	換気と通風④/換気の種類、換気に関する法規、通風	⑪ 音環境③/騒音と振動(騒音・振動とその影響、遮音対策、振動防止計画)
⑫		⑫ 音環境④/室内音響
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮

評価方法

中間試験・期末試験による100点満点評価

教科書
教材

教科書

初めての建築環境(学芸出版社)

教材

備考

その他

教科名 建築法規Ⅰ

	前期	後期	総時数
コマ数	1	1	74

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 矢野 倫大 実務経験: 建築設計

目的 わが国の建築に関する法律の目的・役割を理解した上で、条文の構成・表現を学び、建築基準法の基本的な知識を身に付けることをねらいとする。担当教員の一級建築士の実務経験をもとに、個々の建築物に対する規定である単体規定について説明し、建築物を計画・設計するうえで必要な法律上の知識を身につける。また、建築施工Ⅰの授業の内容を踏まえ、各種手続についても学ぶ。

実務経験の生かし方 1年次は、主に建築基準法の単体規定を中心に学習することから、採光や換気および一般構造や内装制限に関する規定について学ぶうえで、携わった工事についてスライドやプリント等の教材で紹介し、学生の理解を深めるために活用する。また、各種手続についても経験に基づいたエピソードを交えながら説明する。

授業概要	前期	後期
	① 建築基準法の概要 1)建築法規の体系 2)法令集のセットアップ	① 防火に関する材料 1)不燃材料、準不燃材料、難燃材料 2)耐水材料
	② 用語の定義① 1)建築物の定義 2)特殊建築物の定義	② 耐火建築物・準耐火建築物 1)耐火建築物の要件 2)準耐火建築物の要件
	③ 用語の定義② 延焼のおそれのある部分	③ 内装制限① 1)内装制限を受ける建築物 2)内装制限を受ける特殊建築物
	④ 用語の定義③ 1)主要構造部 2)耐火・防火 3)耐火性能の技術的基準	④ 内装制限② 1)内装制限を受ける大規模な建築物 2)内装制限を受ける火気使用室、無窓の居室
	⑤ 用語の定義④ 1)建築面積の算定 2)床面積の算定 3)延べ面積の算定	⑤ 内装制限③ 1)法別表1の特殊建築物の内装制限 2)自動車庫等、特殊建築物の地階の居室の内装
	⑥ 用語の定義⑤ 1)地盤面 2)建築物の高さ 3)軒の高さ・地階	⑥ 手続き① 1)確認申請の概要 2)建築手続きに関する用語 3)規模により確認申請を必要とする建築物
	⑦ 一般構造① 1)居室の定義 2)天井高さ 3)床高さ・床下の換気	⑦ 手続き② 1)工作物の確認申請 2)仮設建築物の確認申請 3)用途変更する場合の確認申請
	⑧ 一般構造② 1)用途地域の概要 2)居室の採光に関する規定	⑧ 手続き③ 1)中間検査 2)完了検査 3)仮使用の申請
	⑨ 一般構造③ 1)居室の採光に関する計算 2)採光を確保するために必要な距離の算定	⑨ 手続き④ 1)違反建築物の建築の防止 2)届出及び統計 3)その他各種手続き
	⑩ 一般構造④ 1)居室の換気の概要 2)自然換気設備 3)機械換気設備	⑩ 防火地域・準防火地域内の建築物
	⑪ 一般構造⑤ 1)中央管理方式の空調設備 2)特殊建築物の居室の換気設備 3)火気使用室	⑪ 防火地域・準防火地域の内外に関わらず耐火建築物・準耐火建築物等にならなければならない特殊建築物
	⑫ 一般構造⑥ 1)住宅の階段の寸法と屋外階段の幅 2) 住宅以外の建築物の階段に関する寸法規定	

評価方法 中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。各試験は初級レベル6割、中級レベル3割、上級レベル1割の出題構成とし、合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確保するための小テストを実施するが、成績には加味しない。

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築関係法令集 法令編 (総合資格学院)	講師オリジナルプリント	

その他 二級建築士学科試験の法規に関連する内容となる。定期試験の際、法令集は持ち込み可とする。

教科名 建築法規Ⅱ

	前期	後期
コマ数	1	

総時数
36

開講学科 建築学科2年
建築設計デザイン科2年

担当教員 矢野 倫大 実務経験: 建築設計

目的	1年次の建築法規Ⅰに引き続き、二級建築士学科試験の法規の出題範囲における防火および避難の規定について、その規定が必要な理由を考えながら学習することにより、法令の目的と内容をより深く理解することをねらいとする。後半では、集団規定について学習し、担当教員の一級建築士の受験経験をもとに作成した演習問題を繰り返し解くことで2級建築士学科試験に合格するための必要な知識の習得を目標とする。
----	--

実務経験の生かし方	2年次は、建築基準法の防火区画や避難規定および集団規定を中心に学習することから、それらの規定について学ぶうえで、実際に携わった工事についてスライドやプリント等の教材で紹介し、学生の理解を深めるために活用する。
-----------	--

授業概要	前期	
	① 防火区画① 1)防火区画の概要 2)高層階区画(令112条5項～8項) 3)堅穴区画 (令112条9項)	
	② 防火区画② 1)異種用途区画(令112条12項・13項) 2)面積区画の概要 3)面積区画(令112条1項～4項)	
	③ 避難規定① 1)避難規定の概要(令117)条 2)避難経路 3)避難のための直通階段	
	④ 避難規定② 1)メゾネット型住戸の歩行距離 2)2以上の直通階段を設けなければならない建築物	
	⑤ 避難規定③ 1)重複区間の制限 2)避難階・屋上広場の規定 3)非常用の照明装置 4)非常用の進入口	
	⑥ 道路① 1)道路の定義 2)位置指定道路 3)4m未満の道(2項道路)	
	⑦ 道路② 1)道路と敷地との関係 2)道路内の建築制限 3)その他の制限	
	⑧ 容積率① 1)延べ面積の限度の求め方 2)敷地が2以上の用途地域にわたる場合	
	⑨ 容積率② 1)特定道路に接続する道路に接する場合の容積率の算定 2)「容積率算定用の延べ面積」の特例	
	⑩ 容積率③ 1)建ぺい率の緩和・適用除外 2)敷地が防火地域の内外にわたる場合	
	⑪ 用途地域① 1)用途地域の概要 2)用途地域内の建築制限 3)用途制限チェックのポイント	
	⑫ 用途地域② 1)店舗併用住宅 2)建築物の敷地が異なる用途地域内にわたる場合	
	⑬ 高さ制限の概要	

評価方法	中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。各試験は初級レベル5割、中級レベル4割、上級レベル1割の出題構成とし、合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確保するための小テストを実施するが、成績には加味しない。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築関係法令集法令編 (総合資格学院)	講師オリジナルプリント	

その他	二級建築士学科試験の法規に関連する内容となる。定期試験の際、法令集は持ち込み可とする。
-----	---

教科名 構造力学 I

	前期	後期
コマ数	2	2

総時数
148

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 佐藤 嘉彦

実務経験: 一般教員

目的	力の表し方と性質を理解し、力のつり合いに大切な反力の理解と部材にかかる応力と架構に於ける各部の力の流れを理解させ、安全で長期に渡って安定した建物を造るために必要な建築構造の基礎知識を教える。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 力の表し方	① 片持梁系ラーメン
	② 力のモーメント	② 単純梁系ラーメン
	③ 力の合成と分解	③ 3ピン式ラーメン
	④ 力の平行四辺形	④ 静定トラス節点法
	⑤ 示力図・連力図	⑤ 静定トラス切断法
	⑥ バリニオンの定理	⑥ 応力度
	⑦ 力のつり合い	⑦ ひずみ度
	⑧ つり合い条件	⑧ 弾性体の性質
	⑨ 支点・節点	⑨ 許容応力度
	⑩ 等分布荷重	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数による。但し、平常点(授業態度)による減点0点から-15点の評価減点あり。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	・FirstStageシリーズ 建築構造設計概論	・オリジナルプリント	

その他	二級建築士資格取得をレベルを目指す。授業中は私語・スマホ操作は一切禁止とする。平常点減点対象とする。
-----	--

教科名 構造力学Ⅱ

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築学科2年
建築設計デザイン科2年

担当教員 小林 清繁

実務経験: 一般教員

目的	建築物に働く力の基本的な知識を習得し、実際の構造物を合理的に設計するうえで、必要な基礎的なことを学び、部材に生ずる力に対して、安全かつ経済的な部材を設計する基礎を学ぶ。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 静定トラス 節点法・切断法の解法	①
	② 部材の性質と応力度 1. 垂直応力度 2. せん断応力度	②
	③ 弾性体の性質 材料の強さと許容応力度	③
	④ 断面一次モーメントと図心 断面二次モーメント	④
	⑤ 断面係数 断面二次半径・断面の主軸	⑤
	⑥ 曲げモーメントを生じる部材 中間試験傾向と対策	⑥
	⑦ 曲げ応力度 曲げ材の設計	⑦
	⑧ 引張応力度 引張材の設計	⑧
	⑨ 長柱と座屈 1. 圧縮材の設計 2. 組合せ応力	⑨
	⑩ たわみとたわみ角 モールの定理	⑩
	⑪ 不静定梁の反力 不静定梁の応力	⑪
	⑫ たわみ角法 期末試験傾向と対策	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数を90%、小テストの平均点数の10%の合計100%で評価
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築構造設計概論(実教出版)		

その他	
-----	--

教科名

建築施工Ⅰ

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数

74

開講学科

建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員

田淵 友也

実務経験:建築施工管理

目的	授業のねらい 建築工事の工種と工法について、安全管理を念頭に入れた技術的・経済的な内容についての学習。入札・落札・請負契約から始まり、着工から竣工(施工Ⅰは躯体工事まで)までの施工を他工事との関連を理解しながら学ぶ。
----	---

実務経験の生かし方	ゼネコン勤務40年の現場施工管理の経験を活かして建築の仕事を伝えます。計画・着工・施工管理・竣工・アフターまで厳しさの中にも出来上がった時の喜びまた自分の手掛けた作品が将来的にも残る嬉しさ等々を現場エピソードを交えて生徒に伝えたい。講義は資料・現場写真等をプロジェクターで適時使用して講義する。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	① 1章 建築の施工 Ⅰ 概要	① Ⅱコンクリートの運搬と打込み
	② Ⅱ 施工業者の選定 Ⅲ 施工計画(調査・準備)	② 6章 型枠工事 Ⅰ 型枠工事
	③ Ⅲ 施工計画 (工程管理・工事管理・安全他)	③ Ⅱ 型枠の設計 Ⅲ 型枠の加工と組立(加工)
	④ Ⅳ 地盤調査	④ Ⅲ 型枠の加工と組立 (組立・検査・取外し)
	⑤ 2章 仮設工事 Ⅰ ～Ⅲ(種類・共通・直接)	⑤ 7章 鉄筋工事 Ⅰ 鉄筋工事 Ⅱ 配筋の方法
	⑥ Ⅲ 直接仮設(足場他) Ⅳ・Ⅴ 工事用電気・給排水・機械	⑥ Ⅲ 加工と組立 (加工・圧接)
	⑦ 3章 土工事 Ⅰ 土工事 Ⅱ 山留工事(計測・規則)	⑦ Ⅲ 加工と組立(組立) Ⅳ 配筋検査
	⑧ Ⅱ 山留 (工法・材料・設計・破壊)	⑧ 8章 鉄骨工事 Ⅰ 鉄骨工事の計画 Ⅱ 工作
	⑨ 4章 地業工事と地盤改良工事 Ⅰ 地業工事(地業種類・杭種類設置)	⑨ Ⅲ 接合
	⑩ Ⅰ 地業種類(場所打ち杭他) Ⅱ 地盤改良工事	⑩ Ⅳ 工事現場施工 Ⅴ 鉄骨関連工事
	⑪ 5章 コンクリート工事 Ⅰ コンクリートの品質と種類(種類・強度・材料他)	⑪ ◎全体のまとめ並びにポイント解説
	⑫ Ⅰ コンクリートの品質と種類 (用語・調合・検査試験・劣化)	

評価方法	①中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 (必要に応じて授業成績を最大▲5点を加味する)
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築施工テキスト (井上書院)		

その他	
-----	--

教科名 建築施工Ⅱ

	前期	後期
コマ数	1	

総時数
36

開講学科 建築学科 2年
建築設計デザイン科 2年

担当教員 出口 広訓

実務経験: 一般教員

目的	建築工事の進め方と管理についての技術的・経済的な内容について教える。各種工事の施工方法について最新の技術を教える。特に、設計監理者としての立場からの事例や注意点等をあげ、安全管理をはじめ、デザインや経済性、材料の特性などについて具体的かつ包括的な視点を持たせ理解させる。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	①
	②	②
	③	③
	④	④
	⑤	⑤
	⑥	⑥
	⑦	⑦
	⑧	⑧
	⑨	⑨
	⑩	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築施工テキスト(井上書院)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名	建築構造設計
-----	--------

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科	建築学科2年 建築設計デザイン科2年
------	-----------------------

担当教員	今 治宣	実務経験:	建築構造設計
------	------	-------	--------

目的	構造計画、構造設計の基礎知識を教える。 鉄筋コンクリート構造、鉄骨造に関して、二次部材の断面算定等の部材設計の流れを理解させ、二級建築士受験程度の知識を教えることに重点をおく。
----	---

実務経験の生かし方	計算されがちな教科であるため、多方面からの見方、考えた方を説明し苦手意識を取り除くように教える。 また、実務経験に基づいた事例を紹介し、構造設計を身近に感じてもらえるように説明する。
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 構造力学における基本知識の確認と復習	① 鋼構造④ 3)小梁の設計-2
	② 鉄筋コンクリート構造① 1)RC概論-1	② 鋼構造⑤ 3)小梁の設計-3 4)各部材設計の概要
	③ 鉄筋コンクリート構造② 1)RC概論-2	③ 鋼構造⑥ 5)二級建築士過去問題演習-1
	④ 鉄筋コンクリート構造③ 3)仮定荷重 4)床の設計-1	④ 鋼構造⑦ 5)二級建築士過去問題演習-2
	⑤ 鉄筋コンクリート構造④ 4)床の設計-2	⑤ 鋼構造⑧ 5)二級建築士過去問題演習-3
	⑥ 鉄筋コンクリート構造⑤ 4)床の設計-3	⑥ 構造計画と荷重① 1)構造計画概論-1
	⑦ 鉄筋コンクリート構造⑥ 5)各部材設計の概要 6)二級建築士過去問題演習-1	⑦ 構造計画と荷重② 1)構造計画概論-2 2)荷重概論
	⑧ 鉄筋コンクリート構造⑦ 6)二級建築士過去問題演習-2	⑧ 構造計画と荷重③ 3)地震力と保有水平耐力
	⑨ 鉄筋コンクリート構造⑧ 6)二級建築士過去問題演習-3	⑨ 構造計画と荷重④ 5)二級建築士過去問題演習-1
	⑩ 鉄筋コンクリート構造⑨ 6)二級建築士過去問題演習-4	⑩ 構造計画と荷重⑤ 5)二級建築士過去問題演習-2
	⑪ 鋼構造① 1)S概論-1	⑪ 構造計画と荷重⑥ 5)二級建築士過去問題演習-3
	⑫ 鋼構造② 1)S概論-2 2)引張材と圧縮材の設計-1	⑫
	⑬ 鋼構造③ 2)引張材と圧縮材の設計-2 3)小梁の設計-1	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数による評価 (評価対象は定期試験結果100%とする)
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築構造設計概論(実教出版)	演習問題(講師オリジナル) 二級建築士過去問題	

その他	二級建築士試験の学科Ⅲのうち、鉄筋コンクリートと鉄骨造に関しては8割以上の正解率を目指す
-----	--

教科名

建築設備

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数

74

開講学科

建築設計デザイン科 2年

担当教員

横田 勉

実務経験:

一般教員

目的

近年、建築物に於ける設備の重要性は益々高くなって来ており、建築技術者として設備技術の習得は欠かせないものとなっている。本講座では担当教員の「建築設備士」「1級管工事施工管理技士」の資格を基に冷暖房、空調、換気、給排水衛生設備全般の基礎知識を身に付けさせ建築現場で、実務を支障なく行う手助けとなるよう指導する。

実務経験
の生かし
方

授業概要	前期	後期
	① 建築設備の概要	① 空気調和設備(一) 冷房負荷計算
	② 給水設備(一) 機器容量	② 空気調和設備(二) 空気調和方式
	③ 給水設備(二) 機器材料	③ 空気調和設備(三) 空気調和機、ダクト
	④ 給湯設備	④ 換気
	⑤ 排水・通気設備(一) 排水・通気系統	⑤ 自動制御、電気理論の基礎
	⑥ 排水・通気設備(二) 排水・通気管径	⑥ 電気設備(一) 電気方式
	⑦ 消火設備	⑦ 電気設備(二) 電気工事
	⑧ 衛生器具設備、し尿浄化槽	⑧ 電気設備(三) 電源、負荷
	⑨ ガス設備、暖房設備(一) 設備の概要	⑨ 電気設備(四) 制御、動力
	⑩ 暖房設備(二) 室内負荷	⑩ 照明・通信設備
	⑪ 暖房設備(三) 温水暖房、輻射暖房	⑪ 後期のまとめ
	⑫ 前期のまとめ	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法

前期、および後期の中間試験と期末試験(計4回)での平均点数(100点満点)による。他に、演習課題、出席率、授業態度等を加味する。

教科書
教材

教科書

絵とき建築設備(改訂3版)
(オーム社)

教材

備考

その他

教科名 建築士講座 計画

	前期	後期
コマ数		0.5

総時数
19

開講学科 建築設計デザイン科 2年

担当教員 戸巻 美樹

実務経験: 一般教員

目的	2級建築士学科試験の学科Ⅰ計画問題の概要と出題傾向を知る。今まで学習してきた建築計画・建築史・環境工学・建築設備の内容を再確認しつつ、実務で必要となる知識を意識して、理解する。 (後期の中間試験まで)
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① 環境① 気候・空気、熱、光
	②	② 環境② 音、色彩、環境全般
	③	③ 設備① 空気調和設備、給水設備、排水・衛生設備
	④	④ 設備② 電気設備、照明設備、消火・防災設備、省エネルギー、設備全般
	⑤	⑤ 計画① 住宅建築、商業建築、公共建築
	⑥	⑥ 計画② 各種建築、建築生産、都市計画、計画各論、建築史
	⑦	⑦
	⑧	⑧
	⑨	⑨
	⑩	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験による100点満点評価
------	-----------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
		2級建築士試験学科 ポイント整理と確認問題 (総合資格学院)	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築士講座 構造

	前期	後期
コマ数		0.5

総時数
19

開講学科 建築設計デザイン科 2年

担当教員 秋谷 智史

実務経験: 一般教員

目的	2級建築士学科試験の「構造」について、過去問分析による傾向と合格に必要なポイントをおさえた学習方法を教える。短期間の中で、特に力学の計算問題について、基礎的事項の整理とともに問題が解ける理解力がつくようになることを目的とする。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① 試験概要説明
	②	② カ・モーメント
	③	③ 力のつり合い
	④	④ 静定梁の反力・応力
	⑤	⑤ 静定ラーメンの反力・応力
	⑥	⑥ 断面二次モーメント
	⑦	⑦ 演習問題
	⑧	⑧
	⑨	⑨
	⑩	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	期末試験の100点満点による評価
------	------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築構造設計概論(実教出版)	オリジナルプリント	

その他	2級建築士試験
-----	---------

教科名 **建築士講座(建築法規)**

	前期	後期
コマ数		0.5

総時数
19

開講学科 **建築設計デザイン科2年**

担当教員 **森 雅宏**

実務経験: **建築設計**

目的	2級建築士試験対策の一環として、建築法規Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を試験問題の演習形式で復習する。
----	---

実務経験の生かし方	受験に際して特に重要なポイントを抽出し、実務経験をもとに実態に即した具体的で詳細な解説を行うことで、法律に対する理解を深める。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	①	① 単体規定 ・用語の定義
	②	② 一般構造 ・構造強度
	③	③ 防火と内装制限 ・避難規定
	④	④ 集団規定 ・道路と敷地
	⑤	⑤ 用途地域 ・建ぺい率・容積率
	⑥	⑥ 高さ制限 ・防火地域
	⑦	⑦
	⑧	⑧
	⑨	⑨
	⑩	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験による100点満点で評価する。
------	---------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	基本建築関係法令集	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 建築士講座(施工)

	前期	後期
コマ数		1

総時数
19

開講学科 建築設計デザイン科 2年

担当教員 田淵 友也

実務経験:建築施工管理

目的	卒業後に受験する二級建築士の学科試験の対策として、知識習得及び建築施工全般の復習を目的とする。過去の問題を種目別に分類し、傾向をつかみながら、問題の解答・解説を行う。
----	---

実務経験の活かし方	ゼネコン勤務40年の現場施工管理の経験を活かして建築の仕事を伝えます。更に資格優先の業界であり「建築士の早期取得の必要性」を伝えたい。現場施工管理業務の厳しさの中にも建物が出来上がった際の喜び・感動等をエピソードを交えて伝えます。
-----------	---

授業概要	前期	後期
		① 第1講 契約・仕様書・申請・届・監理業務 第3講 安全管理・材料管理
		② 第2講 施工計画・工程管理 ネットワーク工程 第4講 仮設工事・地盤・杭・土工事
		③ 第5講 鉄筋工事、型枠工事 第6講 コンクリート工事
		④ 第7講 鉄骨工事・補強コンクリートブロック工事 第8講 木工事・防水工事 第9講 左官工事、タイル・石工事
		⑤ 第10講 塗装工事・建具・ガラス工事 第11講 内装・断熱工事・設備工事 第12講 各種工事・工法・施工機械
		⑥ 第13講 積算・測量 全体まとめ・自習 第13講 積算・測量

評価方法	①中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 (必要に応じて授業成績を最大▲5点を加味する)
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	・イラストでわかる二級建築士 用語集 (学芸出版社)	講師オリジナルプリント	
	・建築施工テキスト (井上書院)		

その他	
-----	--

教科名 建築士講座 設計製図

	前期	後期
コマ数		1

総時数
38

開講学科 建築設計デザイン科 2年

担当教員 前川 新一

実務経験: 建築設計・施工管理

目的	2級建築士製図試験に向けて過去の課題による完成図面の製図(トレース)を行う。来年度の受験を踏まえ、RC造住宅の図面を教材として使用し、描く手順と早さ、正確さを重視し、授業時間にいかに集中してとりくみ、試験で要求されていることを理解する。
----	--

実務経験の生かし方	長年手描きの製図を描いてきた者として、描く姿勢、ペンの持ち方といった基本を理解させ、製図の授業のように美しく描くのではなく、合格できる表現で、早く要求内容を満たす図面を完成させる能力を身に付けるよう指導する。
-----------	--

授業概要	後期 ① RC造住宅練習課題① 試験の概要説明 平面図の製図① ② RC造住宅練習課題① 平面図の製図② ③ RC造住宅練習課題① 平面図の製図③ ④ RC造住宅練習課題① 立面図の製図③ ⑤ RC造住宅練習課題① 断面図の製図③ ⑥ RC造住宅練習課題② 断面図の製図① ⑦ RC造住宅練習課題② 断面図の製図② ⑧ RC造住宅練習課題② 断面図の製図③ ⑨ RC造住宅練習課題③ 部分詳細図の製図① ⑩ RC造住宅練習課題③ 部分詳細図の製図② ⑪ RC造住宅練習課題③ 部分詳細図の製図③ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮
------	---

評価方法	図面提出課題による100点満点評価
------	-------------------

教科書 教材	教科書	教材 オリジナルプリント	備考
-----------	-----	-----------------	----

その他	
-----	--

教科名 建築積算A

	前期	後期
コマ数		1

総時数
38

開講学科 建築設計デザイン科 2年

担当教員 前川 新一

実務経験: 建築設計・施工・積算

目的	建築積算の基本ともいえる設計図書から建築物の数量を計測・計算する方法を教え、実務の事例を踏まえ、建築の生産活動をコスト面からマネジメント(管理)するという基本的な考え方を理解することを目的とします。また、建築積算士補の資格取得を目的とします。
----	---

実務経験の生かし方	住宅会社での積算業務経験を活かし、実社会における建築積算の必要場面の中で、積算に求められている意義や考え方を具体的に説明し、設計者としての概算予算、施工現場での発注数量の拾い出しや施工会社としての受注金額の決定など実践を踏まえて各立場の考え方を解説していきます。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	①	① 建築積算とは (建築生産活動と積算)
	②	② 建築生産プロセスの概要と建築積算①
	③	③ 入札とは (入札の種類 工事の発注・契約方式 数量公開)
	④	④ 積算業務の概要 (積算業務の流れ)
	⑤	⑤ 設計図書とは (設計図書の構成と種類)
	⑥	⑥ 工事費の構成 (工事費とは何か)
	⑦	⑦ 建築コストにおける数量と単価
	⑧	⑧ 内訳書とは
	⑨	⑨ 建築数量積算基準
	⑩	⑩ 数量の計測・計算(仕上) (仕上の数量計算の仕方)例題演習
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価 後期期末試験は、建築積算士補の資格試験兼用とする
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築積算 (日本建築積算協会)	建築積算(別冊)	

その他

syllabus

教科名 建築測量

	前期	後期
コマ数		1

総時数
38

開講学科 建築設計デザイン科 2年

担当教員 前川 新一

実務経験： 一般教員

目的	地表上の必要な諸点相互の関係位置をはかり、図面上の諸点や線を設定する作業をおこなう測量に関する、機械・器具の構造や操作と、距離・角度・高さを測定するために必要な知識、測定方法および作業技術、さらに建築の工事現場で行われている工事測量の基本について学習する。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	後期 ① 1章 建築と測量の関わり 1建築測量とは2 測量技術のあゆみ 3測量の基準・分類 ② 2章 測量の計算 1 数値計算 ③ 2章 測量の計算 2 三角関数と角度 3 角度の換算・電卓での計算 ④ 3章 敷地の距離測量 1距離の定義・分類・器具 2平坦地・傾斜地の測量 ⑤ 3章 敷地の距離測量 3 距離測量誤差と許容誤差 4距離測量 ⑥ 4章 敷地の面積測量 1 平板測量に用いる器具 2平板の標定 ⑦ 4章 敷地の面積測量 3平板測量による面積測量 4平板の誤差と精度 5面積の計算方法 ⑧ 5章 敷地の水準測量 1水準測量の分類・器具等 2野帳の記入方法 ⑨ 5章 敷地の水準測量 3水準測量演習 ⑩ 6章 トランシット測量 1トランシット測量の概要 2トランシットの構造 ⑪ 6章 トランシット測量 3水平角の測定実習 ⑫ 7章 工事測量 1 標示の方法 2 各種工事の測設 ⑬ ⑭ ⑮
------	--

評価方法	中間試験・期末試験による評価と実習態度による評価
------	--------------------------

教科書 教科書 教材	教科書 図説建築測量(産業図書)	教材	備考
------------------	---------------------	----	----

その他	
-----	--

教科名

照明デザイン

	前期	後期	総時数
コマ数		1	38

開講学科

建築設計デザイン科2年

担当教員

沖 博文

実務経験:

一般教員

目的	最近の照明器具の多様化に伴い、自由度の高い照明デザインが可能になっている。インテリアや建築物が照明で大きく変わる。電気や照明の基礎的な説明から、照明の楽しさと重要性について、ほとんど基礎知識のない初心者でも十分に理解できるように説明する。特に照明デザインの重要性が一層高まるなかで、快適環境を形成する照明デザインについて、最新の情報もふまえて理解させる。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要		後期
		① 建築電気設備の概要 照明デザインガイダンス
		② 電気の一般知識 電子と電流 オームの法則
		③ 電気の基礎 直列接続と並列接続 合成抵抗
		④ 電力と電力量 電流の発熱作用、電力量と熱量の関係
		⑤ 交流の基礎 直流と交流、交流の周波数について、交流回路の基本
		⑥ 電気の保安と電気方式 電気用品安全法と電気工事士法
		⑦ 住宅の配線図 電灯配線図の見方 配線図用図記号
		⑧ 照明環境 照明の基本 良いあかりの条件
		⑨ 光に関する基本量 光と温度放射 照明の基準 照度計算
		⑩ 照明器具 蛍光灯 LED照明 ソーラーパネル
		⑪ 光源と環境 照明の手法 照明計画のプロセス
		⑫ 屋内照明 住宅 照明システムと制御システム

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教科教材	教科書	教材	備考
	建築設備(オーム社)	関連内容の演習プリント	

その他	
-----	--

教科名 インテリアコーディネーションⅠ

	前期	後期
コマ数		1

総時数

38

開講学科 建築設計デザイン科1年

担当教員 秤 優 子

実務経験: 一般教員

目的	授業のねらい 来年度のインテリアコーディネーター資格試験の合格を目指す為の基礎力をつける。今年度は、テキスト上巻の内容のインテリアの歴史・インテリア計画・家具・ウインドウトリートメント・カーペット等の基礎知識を学習する。合わせて、今年の各メーカーの新製品の情報を知らせる。来年度、2年時にテキスト下巻の建築関連の知識を学ぶ。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	① 家具 分類・構造・種類・家具金物・手入れ ② デザイナーズチェア 北欧家具・イタリアンモダン家具・アメリカ近代デザイン ③ インテリアの歴史 西洋・日本の古代から近代までのインテリアの歴史 ④ 人間工学 人体・動作寸法・家具の配置 安全性・性能と評価 ⑤ インテリア計画 LDKの配置・ユーティリティー・個室・高齢者の居室 ⑥ 色彩と造形 造形の原理・装飾・マンセル表色系・慣用色名・視認性・配色 ⑦ ウインドウトリートメント 種類と特徴・繊維の種類・機能性・採寸見積もり ⑧ 建具 内部建具の種類・外部建具の種類・ガラスの種類と特徴 ⑨ 照明器具 光源の種類と特徴、LED照明・有機EL等の新しい光源 ⑩ インテリアオーナメント 絵画・工芸品・グリーン・エクステリア・茶室 ⑪ その他のエレメント テーブルウェア・キッチン用品・食器・寝装・寝具 ⑫ インテリアコーディネーターの仕事 職能・実務・提案とプレゼンテーションの技
------	---

評価方法	中間試験、期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書	教科書	教材	備考
教科書教材	インテリアコーディネーターハンドブック 統合版上巻 インテリア産業協会		

その他	インテリアコーディネーター資格試験(公益社団法人インテリア産業協会主催)
-----	--------------------------------------

syllabus

教科名 インテリアコーディネーションⅡ

	前期	後期
コマ数	2	1

総時数
110

開講学科 建築設計デザイン科2年(インテリアコース)

担当教員 秤 優 子

実務経験: 一般教員

目的	授業のねらい 前期は、10月に実施されるインテリアコーディネーター資格試験学科試験合格を目指す。前半は、構造・法規・材料等建築一般の基礎知識、後半は1年次に学習したインテリアエレメントを過去問題中心に指導する。後期は二次試験のプレゼンテーション試験の課題を参考に、インテリア計画・平面図・展開図・パース図及び着色を指導する。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 材料(1) 木・木質材料・鉄骨・コンクリート	① 模擬試験問題
	② 材料(2) 内装仕上材・石材・タイル・左官材料・壁紙・ガラス	② 家具の寸法(テーブル・椅子・チェスト・食器収納・書籍収納・テレビボード等)
	③ 採光・照明 採光計画・照明器具の光源の種類、特徴・照明計画の	③ 高齢者の居室(1) 平面図
	④ 住宅設備(1) 冷暖房・空調設備・給排水設備	④ 高齢者の居室(2) 軸測投影図(アクソメ図)
	⑤ 住宅設備(2) キッチン・サニタリーの設備機器(洗面所・浴室・便所)	⑤ LD(リビング・ダイニング)のインテリア計画(1)平面図
	⑥ 法規 建築関連法規(建築基準法・消防法等)消費者関連法規	⑥ LD(リビング・ダイニング)のインテリア計画(2)展開図
	⑦ 見学会 キッチン・建材・建具メーカーのショールーム見学	⑦ LDKの計画(1) キッチンのレイアウト 平面図
	⑧ インテリアオーナメント 絵画・グリーンテーブルウェア・寝装寝具	⑧ LDKの計画(1) へいめんず・着色
	⑨ インテリア販売の知識 住宅と社会・価格と流通・コンサルティング	⑨ 寝室の計画 平面図・パース図・着色
	⑩ インテリアの歴史 西洋・日本の歴史 ・デザイナーズ家具	⑩ 論文対策 北欧風なインテリアコーディネートの方法等
	⑪ インテリア計画 人間工学・人体寸法・住居(LDK・個室)の計画	⑪ 二次試験予想問題
	⑫ 色彩と造形 造形美の原理・装飾デザイン、色の表色系・混色・対比	
	⑬ ウインドウトリートメント 種類・部位名・操作方法	

評価方法	ミニテスト20%と中間試験、期末試験80%の配点による100点満点評価
------	-------------------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	インテリアコーディネーターハンドブック 上・下巻 インテリア産業協会発行	1次試験過去問題徹底研究 上・下巻 ハウジングエージェンシー出版	

その他	インテリアコーディネーター資格試験(公益社団法人インテリア産業協会主催)合格をめざす
-----	--

syllabus

教科名 カラーコーディネーション

	前期	後期
コマ数	1	

総時数
36

開講学科 建築設計デザイン科2年(インテリアコース)

担当教員 秤 優子

実務経験: 一般教員

目的	授業のねらい 色に関する応用、実務知識を取得する。又、過去に流行した建築物、インテリア商品の色彩の実例に触れ、色彩感覚を磨く。又、カラーユニバーサルデザイン等の今日の社会において必要な知識も取得する。その過程で、インテリア・商業施設のインテリア計画を考える場合に、幅広く色彩計画が考えられる実力をつけ、合わせて、検定試験合格を目指す。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 色のはたらき・近代のデザインと色彩	
	② 西洋・日本の色彩の文化史	
	③ 自然界と身近な色彩	
	④ 色の見えに影響を与える要因	
	⑤ カラーユニバーサルデザイン	
	⑥ 照明の特性	
	⑦ 色彩の法的規制について	
	⑧ 染料の種類と特徴	
	⑨ 顔料の種類と特徴	
	⑩ 色の測定と表示	
	⑪ 流行の理論と流行色	
	⑫ 色彩調査・色彩の心理的効果	
	カラーコーディネーションと配色	
	ファッション色彩の実例ーテキスタイルとニット、ショップディスプレイ	
	商品色彩の実例ー椅子・乗用車・携帯電話・生活家電・パソコン等	
	環境色彩の実例ー赤坂東急ホテル・幕張ベイタウン・グリニー団地	
	カラーコーディネーター2級模擬試験(1)	
	カラーコーディネーター2級模擬試験(2)	

評価方法	中間試験、期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書教材	教科書	教材	備考
	カラーコーディネーター2級公式テキスト	カラーコーディネーター2級テキスト&問題集)	
	東京商工会議所編	(成美堂出版)	

その他	カラーコーディネーター検定試験2級
-----	-------------------

教科名 建築製図演習 I (前期)

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築設計デザイン科 1年

担当教員 小坂 裕幸

実務経験: 建築設計

目的	木造住宅建築図、後期:RC造集合住宅建築図の教材を使って、建築図面の見方の習得、製図の基本の習得を目的とし、さらに各種構造物の内容の理解を目指す。
----	---

実務経験の生かし方	実際の設計図を利用して実務で必要となる製図方法も交えて教材の違いや実務で製作した模型を活用して立体的に空間を認識できるように教えます。設計事務所の実務についてエピソード踏まえ話しながら建築製図の基本を教えます。
-----------	---

授業概要	前期 ① 1)製図の基本:用具の使い方、線の描き方 2)課題1 レイアウトと線の練習	後期 ①
	② 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	②
	③ 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	③
	④ 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	④
	⑤ 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	⑤
	⑥ 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	⑥
	⑦ 課題3 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑦
	⑧ 課題3 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑧
	⑨ 課題3 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑨
	⑩ 課題3 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑩
	⑪ 課題4 木造住宅の製図:矩計図	⑪
	⑫ 課題4 木造住宅の製図:矩計図	⑫
	⑬ 課題4 木造住宅の製図:矩計図	⑬
	⑭	⑭

評価方法	提出課題による100点満点の平均点数 課題提出90% 出欠席10%、計100%での評価
------	--

教科書 教科書 教材	教科書 最新建築設計製図 (井上書院)	教材	備考
------------------	---------------------------	----	----

その他	
-----	--

教科名 建築製図演習 I (後期)

	前期	後期
コマ数		2

総時数
76

開講学科 建築設計デザイン科1年

担当教員 大野 佳月

実務経験: 商業施設設計

目的	RC造集合住宅建築図の教材を使って、建築図面の見方の習得、製図の基本の習得を目的とし、さらに各種構造物の内容の理解を目指す。
----	--

実務経験の生かし方	製図の知識・技能を習得するために、作図の方法・RC造建築物の理解・設計図書から情報収集する際の要点など、手書きの実務経験を生かして指導する。
-----------	--

授業概要		後期
		① ・平面詳細図要素①(教科書の課題22) S=1/10。A3ケント紙に作図する。
		② 平面詳細図要素②(課題22)
		③ ・1階平面詳細図(課題23)① S=1/30。A2ケント紙に作図
		④ 1階平面詳細図(課題23)②
		⑤ 1階平面詳細図(課題23)③
		⑥ 1階平面詳細図(課題23)④
		⑦ 断面詳細図(課題25)① S=1/30。A2ケント紙に作図する。
		⑧ ・断面詳細図(課題25)②
		⑨ ・断面詳細図(課題25)③
		⑩ ・断面詳細図(課題25)④
		⑪ ・展開図(課題28)① S=1/50。A2ケント紙に洋室8面を作図する。
		⑫ 展開図(課題28)②

評価方法	
------	--

教科書 教科書 教材	教科書 最新建築設計製図 (井上書院)	教材 製図道具一式	備考
------------------	---------------------------	--------------	----

その他	二級建築士製図試験に関連する内容となる。
-----	----------------------

教科名 建築製図演習Ⅱ

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築設計デザイン科 2年

担当教員 林 晴一

実務経験: 建築施工管理

目的	鉄骨構造の建築製図について、基本的な実務知識と技術を習得することを目指す。鉄骨構造の設計図を正しく読み、製図する能力と取り組む姿勢を身につけることを目指す。
----	--

実務経験の生かし方	設計図の書き方を、実際に関わった工事について説明し、図面の書き方についての理解を深めるための教材として活用する。また、各部の詳細図の書き方や表現の仕方などを、スケッチや部分詳細図で説明し、どの図面のどこを参照すれば分かるかを説明する。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	① 授業の進め方、課題説明	①
	② 鉄骨構造の図面の見方	②
	③ 課題1 平面詳細要素の製図	③
	④ 課題2 平面詳細図の製図	④
	⑤ 平面図の基本的書き方	⑤
	⑥ 部分詳細の説明	⑥
	⑦ 図面の表現の仕方	⑦
	⑧ 課題3 矩計図の製図	⑧
	⑨ 矩計図の書き方	⑨
	⑩ 部分詳細の説明	⑩
	⑪ 最終評価・講評	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	製図のプロセス・提出期限・最終成果図面を総合的に評価する。50点以上を合格とする。
------	---

教科書 教材	教科書 青山建築デザイン・医療事務専門 学校2号館設計図	教材	備考

その他	
-----	--

教科名 2D・CAD演習(前期)

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築設計デザイン科1年

担当教員 矢野 倫大

実務経験: 一般教員

目的	CADシステムとJw-cadの基本操作の理解と基本図形等の作図を行いながら、CAD操作技術を教える。また建築CAD3級程度の図面を作図しながら、作図技術を習得できるよう教える。実務では早く正確な図面作成が求められることを理解させる。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	●JW-CAD基本操作	
①	●「基本設定」、画面の拡大・縮小、用紙サイズと縮尺	①
②	・「線」「コーナー」「矩形」コマンド、ファイルの保存方法、輪郭線・表題欄の描き	②
③	・文字の書き方、属性変更、「円」「円弧」の描き方	③
④	・図形の選択、「複写」コマンド	④
⑤	・「2線」「包絡範囲」コマンド	⑤
⑥	●木造平家建て住宅 配置図、平面図	⑥
⑦	●木造2階建て住宅 配置図、平面図	⑦
⑧		⑧
⑨		⑨
⑩		⑩
⑪		⑪
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮

評価方法	前期中間試験は、「Jw-CAD」の基本操作を踏まえた作図試験により評価する。前期期末試験以降は、作図課題で評価する。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
		講師オリジナルプリント	

その他	ソフトは、1号館コンピュータ室のJw-cad for windowsを使用する。
-----	--

教科名	2D・CAD演習(後期)【必修】		前期	後期	総時数
		コマ数		2	

開講学科	建築設計デザイン科1年		
担当教員	佐藤 嘉彦	実務経験:	一般教員

目的	授業のねらい 前期で習得したJw-CADの機能や操作方法を踏まえ、「断面図」、「立面図」の作図について学習することで、木造専用住宅のCADにおける作図に習熟する。そのあとは、建築CAD検定3級の作図演習を通して、建築図面を速く、正確に作図する技術を身に付け、1月に実施される検定試験の合格を目指す。更に、担当教員の一級建築士の経験をもとに、プレゼンテーション技法である着色や陰影の表現について学び、2年次における設計課題における表現のグレードアップに繋げる。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要		後期
		① ・JW-CADによる断面図
		② ・JW-CADによる立面図
		③ ・建築CAD検定3級対策①: ・3級の概要、 第17回A問題
		④ ・建築CAD検定3級対策②: ・第17回D問題
		⑤ ・建築CAD検定3級対策③: ・第17回B・C問題
		⑥ ・建築CAD検定3級対策④: ・第18回A・B問題
		⑦ ・建築CAD検定3級対策⑤: ・第20回A・B問題
		⑧ ・建築CAD検定3級対策⑥: ・第18回C・D問題
		⑨ ・建築CAD検定3級対策⑦: ・第53回模擬試験
		⑩ ・JW-CADによる図面の着色
		⑪ ・JW-CADによる図面の陰影の表現

評価方法	定期試験は行わずに、中間は建築CAD検定の第18回A・B問題と期末は第53回の過去問題を提出し、それぞれ100点満点の平均点で後期の評価とする。いずれも詳細な採点項目により客観的に評価し、学生の印象による評価や教員の恣意的な評価は避ける。
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	なし	講師オリジナルプリント	

その他	建築CAD検定3級に関連する内容となる。
-----	----------------------

教科名 コンピュータプレゼンテーション(前期)

	前期	後期
コマ数	2	

総時数

72

開講学科 建築設計デザイン科2年

担当教員 出口 広訓

実務経験: 一般教員

目的	建築設計におけるプレゼンテーションツールとして3Dモデル作成技術を教える。特に後半では課題を中心に授業を進め、設計図をもとにした正確なモデリングや応用技術を習得させる。実務経験上のプレゼンテーション方法や表現について事例をあげ、他者へのプレゼンテーションをはじめ、設計補助のツールとしても実践的に用いることができるようになることを目標とする。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① SketchUPの概要と基本操作①: モデリングツールの操作、マテリアルの設定等	①
	② 課題①小規模建築物の外観モデリング	②
	③ SketchUPの基本操作②: 図形の移動・複製・回転、正多角形の作成等	③
	④ 課題②: 休憩所のモデリング	④
	⑤ SketchUPの基本操作③: 長さの計測、補助線の作成、角度指定モデリング等	⑤
	⑥ 課題③: 切妻住宅の外観モデリング	⑥
	⑦ SketchUPの基本操作④: 視点の切り替え、レイヤ、モデルの断面表示の方法	⑦
	⑧ 課題④: 店舗付き事務所ビルのモデリング(外観)	⑧
	⑨ 課題④: 店舗付き事務所ビルのモデリング(内観)	⑨
	⑩ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(外観)	⑩
	⑪ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(外観)	⑪
	⑫ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(内観)	⑫
	⑬ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(内観)	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	各提出課題による100点満点の平均点数
------	---------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 コンピュータプレゼンテーション(後期)

	前期	後期
コマ数		2

総時数
76

開講学科 建築設計デザイン科2年

担当教員 余湖 祥博

実務経験: 一般教員

目的	アプリケーションソフトはAutoCAD用い 製図目的に応じた用紙設定ができ、作図コマンド・編集コマンド等の特徴を 理解し図面作成のための基本を学ぶ。 また、CAD検定試験3級・2級受験の基礎知識を養う。
----	--

実務経験 の生かし 方	
-------------------	--

授業概要	前期	後期
	①	① CADの特徴・目的の理解 基本操作とCAD感覚を養う
	②	② 製図と用紙サイズ 起動・保存・終了 スナップ機能の理解
	③	③ 座標入力・作図コマンドの活用法
	④	④ 円の作成・一時オブジェクトスナップの活用
	⑤	⑤ 円弧・多角形コマンドの理解
	⑥	⑥ 文字・寸法入力 I 方法
	⑦	⑦ 文字・寸法入力 II 各種編集方法
	⑧	⑧ 図形操作コマンド 移動・コピー・回転・尺度変更の活用
	⑨	⑨ 図形修正コマンド トリム・オフセットの活用法と練習問題
	⑩	⑩ オブジェクトの結合 配列複写の活用法と練習問題
	⑪	⑪ 3級検定問題向け対策 2重線の使い方
	⑫	⑫ 課題作図 II コマンド復習・作図の高率化
	⑬	⑬ 登録・印刷と設定法・まとめ
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 小課題の提出
------	-----------------------------------

教科書	教科書	教材	備考
教科書 教材	AutoCAD 2019/AutoCAD LT2019 公式トレーニングガイド(日経BP社)		

その他	目標: 建築CAD検定試験3級受験 基礎知識
-----	------------------------

教科名

建築計画演習(前期)

	前期	後期
コマ数	3	

総時数
108

開講学科

建築設計デザイン科1年
インテリアコース・デザインコース共通

担当教員

大野 佳月

実務経験:

商業施設設計

目的

課題「趣味室のある木造2階建て住宅」の設計を通して、担当教員の一級建築士の実務経験に基づいた設計趣旨のまとめ方、プランニングの進め方、設計の基本事項を教える。具体的には、二級建築士の製図試験に備え、設計条件を理解し、計画、設計、製図と模型製作を通してのデザインと表現の技術、これら二つの技術の基礎力を習得するのが目的であり、独自の木造のプランニング力と基本的な図面の作図力の習得が目標となる。

実務経験の生かし方

これまで商業施設設計に関わってきた施主の要望事項を確認する方法として、設計図書と模型での確認を行ってきた。施主の希望通りの建物を表現するためには文書のみではなく図面等が必要となる。個人住宅の計画を通して、作成のポイントを示しながら、設計について理解してもらうと同時に、施主にプレゼンテーションする為の表現力、手法を学ぶ。

授業概要	前期 課題の説明	18) 模型作成 建物パーツ作成
	1) ブロックプランの進め方	19) 模型作成 建物パーツ作成
	2) 設計資料によりブロックプランの検討	20) 模型作成 建物組立
	3) ブロックプラン作成とチェック	21) 外構作成
	4) ブロックプラン仕上げ	22) 模型仕上げ
	5) ブロックプランの完成・ブロックプラン評価	23) 図面と模型の完成提出による評価
	6) エスキス作成1	24)
	7) エスキス作成2	25)
	8) エスキス作成とチェック	26)
	9) エスキス仕上げ	27)
	10) エスキス完成・エスキス評価	28)
	11) 1階平面図・配置図の作成	29)
	12) 2階平面図の作成	30)
	13) 平面図仕上げ・ラベルシート作成	31)
	14) 図面完成・図面による評価	32)

評価方法

中間採点はブロックプランとエスキスにて評価、期末採点は図面と模型による評価で行う(各100点満点平均)。平常点(授業態度、取組姿勢)により、減点評価0点～-15点とする。

教科書 教材	教科書	教材	備考
	・建築計画・設計シリーズ41 「新・住宅Ⅰ」(市ヶ谷出版社) ・見てすぐわかる建築模型の本 (彰国社)	講師オリジナルプリント	

その他

授業中は私語・スマホ操作は一切禁止します。平常点の減点対象とします(スマホでの検索は担当教員の許可を得て使用すること)。

教科名 建築計画演習(後期)

	前期	後期	総時数
コマ数		3	114

開講学科 建築設計デザイン科1年

担当教員 早川陽子

実務経験: 建築設計監理

目的	課題「自動車ショールーム」の設計 車の展示販売販売のみならず、街の交流や情報の発信拠点として誰にとっても魅力あるショールームを計画、設計する。更に周辺環境との調和にも配慮し地域住民の為の快適や賑わいを演出する。建物の基本的要求の理解と自由な発想を学ぶ。
----	---

実務経験の生かし方	建築士として実際に設計した建物について取り組み方を紹介する。特に基本設計では建築法規、建築計画の重要性を伝え、自ら調べ創り上げてゆく過程の大切さを指導する。設計においては基本から応用の選択を実際の図面、写真を紹介することで学生の可能性を引き出す。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	①	① 課題の説明 所要室の役割と法規のチェック
	②	② ブロックプラン提出 エスキス開始 (配置兼平面図)
	③	③ エスキス(配置兼平面図) 平面計画、外構計画
	④	④ エスキス(配置兼平面図) 平面計画 構造計画 各部の設計
	⑤	⑤ エスキス(配置兼平面図)の提出 (中間採点)
	⑥	⑥ エスキス(総合) 平面図の整理、断面、立面の検討
	⑦	⑦ エスキス総合 配置図兼平面図、断面図、立面図
	⑧	⑧ エスキス総合 配置図兼平面図、断面図、立面図
	⑨	⑨ 製図・パース・模型、設計趣旨 全体のバランス指導
	⑩	⑩ 製図・パース・模型、設計趣旨 全体のバランス指導、設計趣旨
	⑪	⑪ 製図・パース・模型の提出 (期末採点)
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験:エスキス100点満点評価 期末試験:図面・模型の100点満点評価
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
		商業施設Ⅱ(市ヶ谷出版社) 建築基準法法規 建築資料集成 新建築	

その他

教科名 インテリアデザイン設計・空間デザイン設計

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築設計デザイン科 2年
インテリアコース・デザインコース

担当教員 成田 康博

実務経験: 建築設計

目的	課題(道の駅)を通して建築設計の基礎知識、設計の思考方法や表現技術などを学習して基本設計をまとめあげ成果品として図面・模型の提出をさせる。特に、実務経験上の設計事例をあげ、建築設計の役割と責任を理解させる。図面作成においては、使える表現技術の基礎を教え、模型制作では制作技術の全体的な底上げが出来るように指導していく。
----	---

目的	課題(道の駅)を通して建築設計の基礎知識、設計の思考方法や表現技術などを学習して基本設計をまとめあげ成果品として図面・模型の提出をさせる。特に、実務経験上の設計事例をあげ、建築設計の役割と責任を理解させる。図面作成においては、使える表現技術の基礎を教え、模型制作では制作技術の全体的な底上げが出来るように指導していく。
----	---

授業概要	前期	後期
	① 設計課題(道の駅)の内容・日程説明 ブロックプランの内容説明・指導	① —
	② ブロックプランの指導	②
	③ ブロックプランの指導・提出	③
	④ ブロックプランの返却(修正済) エスキスの開始(エスキスの内容説明他)	④
	⑤ エスキスの指導(配置図・平面図)	⑤
	⑥ エスキスの指導(立面図・断面図)	⑥
	⑦ エスキスの指導・提出	⑦
	⑧ エスキスの返却(修正済) 成果品の内容説明・図面作成開始	⑧
	⑨ 図面下書き・建築パースの指導	⑨
	⑩ 図面スミ入れ・着彩指導	⑩
	⑪ 図面着彩指導 模型制作・指導	⑪
	⑫ 模型制作・指導 成果品(図面・模型)の提出	⑫

評価方法	中間採点・期末採点による100点満点の平均点 中間採点はブロックプラン30%・エスキス70%の計100%での評価 ブロックプラン・エスキスの採点は各提出期限10%・内容40%・表現力40%・日常10%、計100%での評価 期末採点は成果品の図面50%・模型50%の計100%での評価 図面・模型の採点は各提出期限20%・表現力70%・日常10%、計100%での評価
------	--

教科書	教科書	教材	備考
		建築設計資料53道の駅 (建築思想研究所)	

その他	
-----	--

教科名 卒業設計演習

	前期	後期
コマ数		5

総時数
190

開講学科 建築設計デザイン科 2年
インテリアコース・デザインコース

担当教員 矢野 倫大

実務経験: 建築設計

目的	1年半の授業で得た建築知識を基にして、卒業課題の構想・決定、作図、模型製作を通して建築知識を深める。実務では重要な建築計画立案からプレゼンテーションまでの流れを教える。抽象的な着想から具現化することは建築を志す者にとって大切なことを理解させる。
----	--

実務経験の生かし方	担当教員の一級建築士としての実務経験をもとに、建築設計資料集成などの資料の参照方法を指導し、更に提出物の最低限の項目を学生各自で確認させ、完成形をイメージしながら、限られた時間内でなるべく無駄が生じない設計の進め方を指導する。
-----------	---

授業概要		後期
		① 1. 卒業設計の進め方
		② 2. 設計テーマの決定
		③ 3. 資料収集
		④ 4. コンセプト作成
		⑤ 5. エスキス
		⑥ 6. エスキスチェック
		⑦ 7. 基本設計提出
		⑧ 8. 中間採点評価
		⑨ 9. 図面作成 平面・立面・断面・配置
		⑩ 10. 模型製作
		⑪ 11. 最終評価・制作発表展準備
		⑫
		⑬
		⑭
		⑮

評価方法	中間:ブロックプランと提出したエスキスおよび作業に対する姿勢で評価する。 期末:完成図面と模型の成果品で評価し、完成までの過程および作業に取り組む姿勢も加味する。
------	--

教科書	教科書	教材	備考
教科書 教材		・講師オリジナルプリント ・図書室にある資料 (建築設計資料集成など)	

その他	
-----	--

教科名 ファニチャーデザイン(前期)

	前期	後期
コマ数	1	

総時数
36

開講学科 建築設計デザイン科 2年: インテリアコース

担当教員 大野 佳月

実務経験: 一般教員

目的	実務経験上、お客様に設計意図をより判りやすく説明する為のプレゼンテーションを含め、ジャイアントファニチャー(大きい家具)や椅子を題材に、既成概念にとらわれず自由に柔軟な考え方を養い発想の転換をはかる。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 授業の進め方 課題説明	①
	② ジャイアントファニチャー 家具の概念を考える	②
	③ 資料収集・アイディアスケッチ①	③
	④ 資料収集・アイディアスケッチ①	④
	⑤ A2 ケント紙にプレゼンテーション①	⑤
	⑥ A2 ケント紙にプレゼンテーション②	⑥
	⑦ ○○○の椅子 何かの為の椅子を発想する	⑦
	⑧ 資料収集・アイディアスケッチ	⑧
	⑨ 資料収集・アイディアスケッチ	⑨
	⑩ プレゼンテーション図面作図①・模型①	⑩
	⑪ プレゼンテーション図面作図②・模型②	⑪
	⑫ プレゼンテーション図面・模型仕上げ 提出	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間・期末の提出課題100点満点評価
------	--------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
		製図・着色・模型道具一式	

その他	
-----	--

教科名 プレゼンテーションテクニック

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 建築設計デザイン科 1年

担当教員 大野 佳月 実務経験： 一般教員

目的	お客様に設計意図をより判りやすく説明する為のプレゼンテーションにおいて、図面の他に模型やパースが重要な役割をしめている。授業では模型やパースの基礎から設計課題(各自で設計)をより良く表現する為の方法を理解させる。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 授業の進め方 プレゼンテーションの必要性解説	① (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 作図説明
	② (模型)道具・材料説明 コーナーの製作	② (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 画面枠の作図
	③ (模型)「100角ビル」のモデリングの説明 図面の理解・スケール変更・壁の作成	③ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 窓の作図
	④ (模型) 図面の理解・スケール変更 壁・出入口の作成	④ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 ベット・机の作図
	⑤ (模型) 図面の理解・スケール変更 窓の説明・窓の作成	⑤ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 椅子の作図
	⑥ (模型) 図面の理解・スケール変更 調整・仕上げ	⑥ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 照明器具の作図
	⑦ (図面表現)印刷平面図に着色説明 テラスの自由デザイン説明	⑦ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 色鉛筆着色
	⑧ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法・立体感のある木の表現方法	⑧ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 色鉛筆着色 仕上げ
	⑨ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 芝生の表現方法	⑨ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より作図説明
	⑩ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 室内床・家具の表現方法	⑩ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より壁・窓の作図
	⑪ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 テラスの表現方法	⑪ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より出入口の作図
	⑫ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 仕上げ	⑫ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より歩道の書き方説明・作図・仕上げ
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間・期末の提出課題100点満点評価
------	--------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	見てすぐつくれる建築模型の本 (彰 国社)	100角キューブ建築:図面一式 1点透視図:図面一式 パース:透視図プリント	

その他	
-----	--

	前期	後期
コマ数	2	2

総時数
148

開講学科 建築設計デザイン科 1年

担当教員 高木 順子

実務経験: 一般教員

目的	建築を計画、デザインするうえでの造形の基礎的な技法及び見方・考え方を教える。前期は作品を制作するプロセスを体験し、考える方法を理解するように指導する、より立体的に表現出来るようにする。後期は作品性の高いものを完成させ、以降の学生自身の制作に役立つように指導する。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 1) 授業内容及び用具の説明、2) 建築デザインに対する考え方について、3) 自分の造りたい建物についてのラフスケッチ、自分の中にある建物について考える、4) スケッチ完成 ② デザイン表現の基礎として、グラデーションを描く、一鉛筆による明暗のグラデーション ③ 色彩によるグラデーションー彩度の変化を表現する ④ 鉛筆デッサンー幾何形態立体を理解し、正確に表現する ⑤ 平面構成ー「四季」をデザインする構成及び、色彩計画をたてる ⑥ 「四季をデザインする」それぞれの季節の違いを色彩で表現する ⑦ 「四季をデザインする」ポスターカラーで彩色、仕上げ ⑧ 「植物の表現」1つのモチーフ(植物)を異なる表現方法で描く(細密描写など) ⑨ 「植物のデザイン」植物を観察して自分のデザインを考える ⑩ 「パターンデザイン」デザイン化したモチーフをパターンデザインとして構成。 ⑪ 「パターンデザイン」構成したデザイン画に色彩の変化をつけて彩色。 ⑫ 「パターンデザイン」仕上げ ⑬ ⑭ ⑮	① 鉛筆デッサンーガラス瓶・アルミ缶素材の形体及び質感を表現する ② 平面構成ーマチエールの違いによる構成質感の違いを表現する、√の長方形 ③ 「マチエールの違いによる構成」ケント紙で質感の違うパーツを製作 ④ 「マチエールの違いによる構成」造ったパーツを美しく構成する。 ⑤ 北海道立近代美術館見学 美術館建築を体感し、美術作品を観る。 ⑥ 「建築の絵画的表現」モチーフとなる建築の写真を選ぶ、下描トレース。 ⑦ 「建築の絵画的表現」それぞれの面の色彩を単純化して表現する。 ⑧ 「建築の絵画的表現」彩色の続き、仕上げ ⑨ 立体構成ー動きのある内部空間をデザインする ⑩ 立体構成ー制作・彩色より動きを表現するためのグラデーションで行う ⑪ 立体構成、組み立て、仕上げ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

評価方法	提出作品による評価(100点満点)
------	-------------------

教科書教材	教科書	教材	備考
	なし 必要に応じてプリントを配布する	スケッチブック2冊 絵の具セット 鉛筆・色鉛筆 他	

その他	
-----	--